

ご愛読者の皆さまへ ~定期購読申し込みのお願い~

いつもThe Watch & Jewelry Todayをご愛読いただき、有難うございます。
これまで無料でご愛読いただいていた皆様の郵送を6月15日より順番にお止めさせていただきます。



SUZUHO logo and contact information for the publisher.

Quality logo and publisher information for (株)時計美術宝飾新聞社.

THE WATCH & JEWELRY TODAY logo and W&J stylized logo.

保険のご相談は(株)東時へ 本社:03-5817-0353 西日本支社:06-6252-4477

『宝石は還流する』

諏訪貿易会長 諏訪 恭一



〈ダイヤ買います。諏訪商店〉

私の祖父は戦前、そんな広告を新聞によく出していたそうです。当時は宝石の輸入が少なく、いわゆる「古物」を仕入れることが、宝石商の大事な仕事でした。

1960年代に父から家業を継ぎ、良質な原石を求めて世界の原産地を飛びまわった私は、まるで商売のスタイルが違います。それでも、私はむしろ祖父の商売に、宝石の本質を見て取るのです。

それはすなわち「還流する」ということ。その具体例を、60年近く宝石ビジネスに携わってきた私の経験から2つ、ご紹介しましょう。

いまから20年ほど前、私はオークションで1カラットのブルーダイヤモンドを1000万円で購入し、小売店を介して、宝石愛好家の方に売却しました。売り値は2000万円ほど。そして数年前、今度はその愛好家の方から「売りたい」とのご依頼を受け、世界屈指のオークションであるクリスティーズに出品しました。すると、7000万円もの高額で落札されたのです。

もうひとつは、その遙か上を行きまわす。バブル景気たけなわの1991年、海

外での買い付けで悪意にしていた外国人ブローカーL氏から、219カラットという大粒のイエローダイヤモンドを預かりました。「ぜひ日本で売りたい」とL氏が付けた値は、破格の18億円。私は数人にオファーしましたが、バブルがピークを過ぎていたこともあり、残念ながら商談には至りませんでした。

じつはこの石、19世紀末にデビアス社の鉱山で発見された、世界で十指に入る大粒のイエローダイヤモンド「De Beers Yellow」だったのです。実物の写真と照合したところ、重量(carat)は若干違いましたが、間違いのないと判断しました。後に聞いたところでは、このダイヤはさらに黄色味が濃くなるようリカットされ、姿と目方を微妙に変えて、2017年に30数億円で購入されたそうです。持ち主を替えては、その都度、お金を落としていく。これが還流する宝石の姿です。私のもとにも、さまざまな宝石がやって来ては去っていったのだなと、改めて思い返されます。

そもそも、宝石を欲する人があとを絶たないのは、なぜでしょうか。自分を美しく飾ることだけが目的なら、人工石や模造で事足りるはず。しかし「宝の石」には、動産としての確かな「価値」があります。古びず、価値が目減りすることなく、持ち運びがいたって容易で、土

地のように登記する煩わしさもない。資産を守る道具としてこれほどハンディなもの、私は宝石以外に知りません。あるとき、私も諏訪貿易の女性のお客様が、感慨深げにこんな思い出を話してくださいました。戦時中、政府による貴金属類の強制買い上げが行われた際、その方のお父様は2カラットのダイヤモンド指輪を持ち込んだそうです。国の目当ては地金や台座に使われている金・プラチナであり、外された宝石も市場価格で買い取っていました(余談ながら、その宝石鑑定を行ったのが、私の祖父と父でした)。

しかし、その方のお父様はダイヤモンドを手放すことなく持ち帰られた。そして終戦から5年ほどが過ぎた頃、ひどいインフレで物価が戦時中の70倍にまで跳ね上がり、通貨の価値が大きく下がってしまったときに、2カラットのダイヤモンドを売却。結婚するその方の(この話をしてくれたお客様)の嫁入り道具を揃えられたそうです。

この方のお父様がなさったのは、要するにダイヤモンドによるインフレヘッジです。「ダイヤモンドを手元に残す」という選択をしたから、インフレから自分の資産を守り、お嬢さんの門出を祝うことができた。おそらく還流する宝石の数だけ、こうした人知れぬドラマが

あるのでしょうか。
宝石が還流する場として最もポピュラーなのが、オークションです。高額なものだけでなく、10〜30万円のものも数多く出品され

ており、一般の方でも気軽に見学・参加できます。オークションの長所は、競り合いながらも、ほぼ価値に見合った水準で取引される点です。仲介料は発生しますが、悪意ある業者に高値を吹っかけられることもなければ、宝石とは呼べないものを買ってしまう心配もありません(オークションでは、人工石や模造、ほとんどの養殖真珠、仕立ての悪いジュエリーは「宝石に非ず」とみなし、取り扱いません)。

Dia Flore logo and contact information for a jewelry store.

日本でもオークションがもっと盛んになり、宝石が「確かな動産」として信頼されるようになれば、宝石を楽しむ人はいっそう増えるに違いありません。そうして宝石リテラシーを持つ愛好家が増えていけば、この国の宝石市場は、より健全で洗練されたものになっていくと思います。

還流する宝石は、質のいいものに限られます。どんなに眩い輝きを放っていても、人工石や模造に宝石の価値はなく、還流はしません。また、たとえ天然石であっても「美しさ」に欠けていれば、これもまた論外です。還流するに値する宝石は、次の3つの条件を満たす必要があると私は考えます。

1つめは、透明度が高く美しいもの。無処理の状態でも、透き通るようなクリアな石は、それだけで美しさが際立ちます。

2つめは、モース硬度7を超過した硬さのもの。翡翠は別にして硬度が7以下の石では、同じく硬度7の石英が含まれる砂埃が付着したときに、傷がついてしまうおそれがあります。

そして3つめは、適度なサイズであること。宝石は身につけて楽しむものなので、大きすぎず、小さすぎないことがポイントです。

こうした条件を満たした宝石は、人が手にしてからどんなに時が過ぎようと、古びることもなければ、劣化することもありません。ゆえに、廃棄されることなく、還流し続けるのです。

その一方、新たに採掘されたものが「新産宝石」として市場に出回りますから、宝石の総量は年々増えていきます。経済的に豊かになる国が増えているうちは、それでも需給バランスが崩れることはないかもしれません。しかし、アジア諸国の大半が経済的に豊かになった今、成長の余地のある国は確実に

減ってきています。20世紀に行われたような大規模な鉱山開発を続けていっても、いずれ供給過多に陥ってしまうのではないのでしょうか。乱開発をやめ、本当に価値のある宝石を適正に値付けし、それを還流させていく。これが、これからの宝石市場のあるべき姿ではないかと私は思います。

「シェアリング」や「リサイクル」、「環境保全」が叫ばれる現在、「還流」に軸足を移していくことは、方向性として決して間違っていないはず。そこに人工石を含めることは許されません。宝石は、地球が生み出した奇跡の産物だからこそ、価値があります。設備さえあれば無

限に製造できる人工石は、あくまで「製品」にすぎません。アクセサリとして人工石や合成ダイヤモンドを楽しむのは、あつていいと思います。しかし「安価にダイヤモンドが手に入る」といった売方をするのは、断じて間違っています。カットして磨きかけた合成ダイヤモンドは、時間と労力をかけて鑑定しない限り、天然ダイヤと区別が付きません。そんなクロンが将来、天然ダイヤと混じり合ってしまったら、宝石の価値が損なわれ、ダイヤモンド市場は崩壊してしまうでしょう。技術が進歩したからといって、宝石を生み出した地球を冒とくするような行為は慎むべきです。

宝石は地球からの預かりものである。そこにかけがえのない価値と美しさがあります。だから、受け継ぐことに喜びを感じるのです。宝石は還流する。その意味を、皆さん一人ひとりに考えていただけたら幸いです。



THE LAZARE DIAMOND advertisement featuring a diamond ring and contact information.

「国際宝飾展 秋」 10月26日〜28日 パシフィコ横浜 advertisement.

The Jewelry Concierge advertisement for Murata Jewelry.

Kuwayama advertisement for ring repair services.

中央宝石研究所 セミナーガイド advertisement with a seminar schedule table.

for you forever UCHIHARA advertisement for gemstones.

Lasox-RD advertisement for a laser marking machine.